

九月鹿ノ台川柳教室誌上句会 優秀句

お題「底」(連記) 森里えいじ選

どん底がうすら笑いを浮かべてる
親の愛底の見えない玉手箱
菓子おりの底は何度も目を通す
どん底を掘ってマグマが舌を出す
上げ底の男ぺらぺら良く喋る
今が底言われて買ってまた下がり
カレンダー予定表には医者ばかり
長生きも蓄え底が見えてくる
汚れ役奈落の底へまた落ちる
薄べったい知識に底がすぐ割れる
見えぬ底どこまで沈む日本丸
上げ底に隠す山つ気ご愛嬌
自画自賛底の浅さをさらけだす
チャンスだねどん底ならば上がるだけ
コロナ禍の底の見えない棒グラフ
秀 釜飯は具より飯よりまずおこげ
軸 底抜けに明るそうだが悩みもち

ちさと
哲子
乃り子
正清
義雄

充

基弘
登美
幸男
よう子
春代
広子
アキラ
千楽
郁子
英二
えいじ

お題「後ろめたい」勝部乃り子選

仕送りを当てに呑む酒腹にしむ
子供にも三歳若く言っている
米寿でも介護頼りに生きてゆく
アフガンを撤退してはきたものの
共同募金見ぬ振りをして通りすぎ
言い訳を百個並べている浮気
デパ地下で買った料理を褒められた
何やった目が泳いでる子の態度
ひまやなあulunバの動き見てる俺
次世代へ数々残す負の遺産
秀 やましさを弄んでる午後のお茶
軸 母の形見指輪を売ってランチ行く

哲子
英二
えいじ
郁子
よう子
ちさと
英二
春代
基弘
義雄
広子
乃り子

お題「躍る」五十嵐千楽選

大雨をあつめて町の川躍る
朝日浴び飛び跳ね躍る犬の影
ディスタンスとらず躍動するコロナ
鮎躍る塩焼きもまたくねらせて
鍵盤に躍動の指光ってる
胸躍り文字まで踊るラブレター
とびはねて疫病神が出世する

登美
英二
ちさと
充
よう子
幸男
ちさと

バツ2でも心が躍る見合い席
昇進の内示日期待こんどこそ
彼を見てすれ違うのに胸ドキリ
小躍りすワクチン予約取れただけ
秀 坂道を自転車飛ばし跳ねる石
軸 ワクワクするのあの人と久しぶり

広子
アキラ
春代
郁子
春代
千楽

自由吟(共選) 前田幸男選

リハビリに手をひっこめて心添え
愚痴言わぬ私はきつと見栄つ張り
リモコンを猫踏み録画いれかわり
後手後手と言われ辞任は先手取る
歯科皮膚科整形外科の上得意
雨上がり草には草の意地がある
難しい叱り方より許し方
汚れなき瞳の奥の猜疑心
あの人の親切いつも変化球
夕風の朱に解けてゆくわだかまり
子が巣立ち夫婦の景色変わりゆく
秀 尾ひれ付けわたしの嘘が舞い戻る
軸 大雨に地は固まらず土砂崩れ

よう子
広子
基弘
郁子
アキラ
広子
義雄
登美
英二
よう子
哲子
義雄
幸男

自由吟(共選) 坪田登美選

何でも屋代理墓参も神妙に
夕風の朱に解けてゆくわだかまり
雨上がり草には草の意地がある
あの人の親切いつも変化球
大雨に地は固まらず土砂崩れ
後手後手と言われ辞任は先手取る
もうすぐよ老々介護待つばかり
続投を推す勢力のある不思議
難しい叱り方より許し方
ゴリ押しの五輪もすんで虫すだく
子が巣立ち夫婦の景色変わりゆく
秀 父の笑顔こわれた母の抛り所
軸 汚れなき瞳の奥の猜疑心

充
よう子
広子
英二
幸男
郁子
えいじ
郁子
義雄
乃り子
哲子
哲子
登美

十月誌上句会 投句 十月十日十七時 各二句

「食べる(連記)」よう子 「丘又は岡」春代
「ノー」英二 「自由吟(共選)」義雄 千楽

メール又は封書でアキラまで